化石研究会会誌投稿規程

（1988年1月27日制定，2016年11月20日改定，2023年6月4日改定，2024年6月2日改定，2026年7月1日改定）

化石研究会会誌に掲載される原稿

内容が広い意味で化石の研究に関連するものであり，本規程に合致すると編集委員会が認めたものとする．

投稿資格

次の者が投稿することができる

１）化石研究会会員

２）その他編集委員会が適当と認めた者

原稿の種類

原稿の種類は，総説，原著論文，ノート，短報，技術紹介，討論，ニュース，論文紹介，本の紹介，追悼，報告などとする．以下にその内容を示す．

総説（Review）：ある分野の研究内容などを総括・評論したもの．

原著論文（Original Article）：オリジナルな研究論文．

ノート（Note）：研究方法や研究過程で生まれたアイディアの提案，化石の研究史など．

短報（Short Report）：重要な発見や事実の報告．

技術紹介（Technical Expertise）：研究技術に関する紹介．

討論（Discussion）：本誌（特別号も含む）および双書に掲載された論文に関する学術的な討論．

ニュース（News）：化石研究会の活動に関する最新のニュース．

論文紹介（Article Review）：新しい論文の紹介．

本の紹介（Book Review）：新しい本の紹介．

追悼（Obituary）：会員の追悼文．

報告（Report）：国内外の関連学会，シンポジウム，ワークショップなどの参加・開催報告．

原稿の言語・構成等

原稿は和文または英文とする．その他の言語の場合は編集委員会と相談する．原稿の構成・長さ・図表類の大きさ・表記方法等は，別に「原稿作成のガイドライン」を定める．

超過ページ分印刷費の著者負担

制限ページ数を超過した場合には，超過分の印刷実費（6,000 円／1 ページ）を著者負担とする．カラー印刷は 1 ページ目無料．2 ページ目からはカラー印刷費 （10,000 円／1 ページ）を著者負担とする．

投稿手続きと査読

原稿には**投稿原稿整理カード**をつけて編集委員会に投稿する．英文の原稿は，投稿前に

筆者の責任でネイティブのチェックを受け完全を期す．本誌は査読制度を採用しており，投稿された原稿について，編集委員会が原稿の構成，文章・語句の表現，図・表の表現などを校閲し，必要に応じて著者に原稿の修正を求めることがある．査読制度については，別に「査読規定」を定める．

原稿は必ず電子媒体＜word ファイル（.docx）・画像ファイル（.jpg など）＞を用いて，電子メール添付，転送サービスを利用し，または CD 等に保存して郵送等により，下記に送付する．

化石研究会会誌編集委員会 電子メールアドレス submit.kasekikenkaishi@gmail.com

〒911-8601　福井県勝山市村岡町寺尾51-11かつやま恐竜の森

福井県立恐竜博物館　　一島啓人　気付

著作権について

化石研究会会誌に掲載された論文の著作権（著作財産権：copyright）は，化石研究会に帰属するものとする．

◇ 原稿作成のガイドライン

（2009 年10 月制定，2016 年11 月20 日改定，2023 年6 月4 日改定，2024 年10 月23 日改定，2026 年7月1 日改定）

フォーマットの設定

投稿は word ファイル（.docx）を用い，1 ページ（B5版） 24 字×24 行（1／4 ページ分）に指定すること．ひらがな・カタカナ・漢字・カッコ・句読点は全角文字，ローマ字と数字は半角文字とする．フォントは游明朝，数字・英文フォントはTimes New Romanとする．

原稿の長さ

本誌は B5判2 段組で，本文のみだと 1 ページあたり和文では 2304字（24 字×48 行×2段）（400 字づめで原稿用紙 5 枚半強）である．

- **原著論文・総説**：刷り上がり 20 ページ以内.
  （ただし，20ページを超えるものでも，編集委員会が認めた場合は可とする．）
- **ノート**：刷り上がり 10 ページ以内.
- **短報**：刷り上がり 6ページ以内.
- **技術紹介**：刷り上がり 4 ページ以内.
- **討論・ニュース・論文紹介・本の紹介・追悼**：刷り上がり 2 ページ以内.
- **報告・その他情報など**：刷り上がり 1 ページ以内.

要旨とキーワード

総説・原著論文・ノートの原稿には，和文英文ともに，200語以内の英文要旨と500字以内の和文要旨を付ける．要旨は本文の前に置き，本文が和文の場合には和文英文の順に，本文が英文の場合は英文和文の順とする．また，英文要旨と和文要旨それぞれのあとに5 個程度のキーワードを付ける.

原稿の構成

総説・原著論文・ノート・短報・技術紹介・討論には，1 ページ目に原稿の種類・標題・著者名・著者の所属機関名（または連絡先）の住所・電子メールアドレスを記すこととする．また，和文原稿の場合には英語による標題・著者名・所属機関名（または連絡先）の住所を添える.

次にページを改めて，総説・原著論文・ノートには要旨とキーワードを添え，本文を記述する．その後に引用文献を列記する．最後に図・表・図版とその説明を番号順にまとめて書く．謝辞が必要な場合は，引用文献の前にまとめて記す.

総説・原著論文・ノート

- 1 ページ目
  - 原稿の種類
  - 標題（＋和文原稿の場合には英語による標題）

- 著者名（＋和文原稿の場合には英語による著者名）
- 著者の所属機関名（または連絡先）の住所（＋和文原稿の場合には英語による所属機関名（または連絡先）の住所）
- 電子メールアドレス

○ 2 ページ目以降

- 要旨
- キーワード5 個程度

※ その後，ページを改めて，以下の順に記述する．

○ 本文
○ 謝辞
○ 引用文献（本文中に必ず引用する．）
○ 図・表・図版（図1，図2，表1，表2 というようの番号を付ける．本文中に必ず引用する．）

著者名の英文表記

著者名の英文表記は，「Kiichi Obata, Yoshiaki Ishida and Haruto Kodera」のように，名 First name 姓 Family name の順に書くこととする．

文体等

文体は「である体」とし，句読点は「，」「．」を用いる．原則として常用漢字を用いる．ただし，固有名詞や慣用語はこの限りでない．難読の地名などにはふりがなをつける．数量の単位は，原則として SI 単位とする．

見出し

大見出し：原則として「1．」「2．」・・・のように番号を付け，前 1 行あけてゴシック体とし左詰め改行する．中見出し：原則として「（1）」「（2）」・・・のように番号を付け，ゴシック体に指定し，左詰め改行する．小見出し：ゴシック体に指定し，左詰め，全角スペースを空けて本文．これ以下の小見出しは，著者が必要に応じてつける．

図表類について

見開きページや折り込みの図表類は認めない．1 段分の幅 71 mm または，2 段分の幅 149 mm で印刷するように作成する．画像データは 300 dpi 以上（1 段分では横幅840 ピクセル以上，2 段分では 1860ピクセル以上）にすることが望ましい．

投稿時の図はjpegかpdf形式のものに限る．

文献の引用

1. 本文中での引用

著者の姓と年で表示．ただし，まぎらわしい場合は姓名を完記．共著者は 2 名まで，そ

れ以上は「ほか」または「et al.（イタリック体にしない）」とする．（ ）内の著者と出版年の間は半角スペースとする（カンマを入れない）．

本文中での引用の例

- 佐藤（2006）は･･･，Smith (2007) では，
- 田中・高橋（2003）によると，･･･
- ･･･も歯種差（Schoeder 1991）や動物種差（奥田ほか 1984；Sakae 1992）について･･･
- ･･･（Uchio 1986; Mitchum et al. 1997; Honda and Naito 2002, 2003）．

2. 引用文献

- 論文末に一括し，著者名のアルファベット順に配列する．
- 同一著者のものは年代順，同年の論文は abc を付けて配列する．
- 同一著者を含む共著論文は，第一著者の単独論文の後に並べ，第二著者のアルファベット順，第二著者以降も同一の場合は，さらに順次，第三，第四著者のアルファベット順に配列する．
- 著者名は完記．アルファベット表記では Family name を先に記し，その後ろに First name 以下をカンマ（,）なしに，イニシャルのみを省略の意味のピリオド（.）を付けずに続けて記す．
- 雑誌名は完記とし，イタリック体にしない．

引用文献の例

学術雑誌、研究報告など

雑誌名の後は半角空け，巻あるいは号は常体の数字で示す．巻・号制をとり，ページが 通巻で振られているものは，号を省略する．ページが号毎に振られているものは，巻の次 に号を括弧内に記す．英文論文における日本語や英語以外の言語による論文引用の場合は，その旨を最後に記す．

- 亀丸文秀（1996）1960 年代から 1990 年代の松島湾における底生有孔虫群集の変化．化石 61，1–20
- 小田切譲二・高橋進吾・高坂祐樹（2003）陸奥湾産卵群マダラの津軽海峡内における回遊について．青森県水産試験場研究報告 3，9–13
- Jorissen FJ, De Stigter HC, Widmark JGV （1995） A conceptual model explaining benthic foraminiferal microhabitats. Marine Micropaleontology 26, 3–15
- Suga S, Taki Y, Ogawa M (1992) Iron in the enameloid of perciform fish. Journal of Dental Research 71, 1316–1325
- Kawabe S (2015) Factors determining the brain morphology of birds. Journal of Fossil Research 47, 2–10: in Japanese with English abstract
- Lowenstam H, Margulis L (1980) "Evolutionary prerequisites for early phanerozoic calcareous skeletons". Biosystems 12 (1–2), 27–41

電子ジャーナル

- Pardo JD, Huttenlocker AK, Small BJ (2014) An exceptionally preserved transitional lungfish from the Lower Permian of Nebraska, USA, and the origin of modern lungfishes. PLOS ONE 9(9), e108542. doi: 10.1371/journal.pone.0108542. pmid:25265394, (cited 2014-12-09)

単行本など

書名の後にピリオドを記し，出版社名，都市名，総ページ数の順にカンマで区切って示し，最後のピリオドは省略する．単行本の一部を引用する場合は，書名の前にカンマで区切って項目名を示す．編集された単行本の場合は，編者を代表として記し，その一部を引用する場合は，その部分の筆者の文献とし，編者と書名等を後に記す．

- 岡村喜明（2000）石になった足跡－へこみの正体をあばく－．サンライズ出版．大津，270p
- 石崎国熙（1978）データの処理 I，解析法．高柳洋吉編，微化石研究マニュアル．朝倉書店，東京，129–140
- 国土地理院（1982）1：25,000 沿岸域地形図，青森．国土地理院
- ニール・シュービン, 垂水雄二訳（2008）ヒトのなかの魚，魚のなかのヒト．早川書房，東京，296p

（翻訳では著者の記述は元文献の表記に従いアルファベットとカタカナのどちらも可）

- Shannon CE, Weaver W (1963) The Mathematical Theory of Communication. University of Illinois Press, Urbana, 125p
- Zangerl R (1969) The turtle shell. In: Gans C, Bellairs A, Parson T (eds) Biology of the Reptilia 1, Academic Press, New York, 311–339

学名の命名者と年号の間のカンマの有無

現在の国際動物命名規約では学名の命名者と年号の間にカンマはあってもなくてもよく，本誌では引用形式に合わせてカンマなしとする．

◇ 査読規定

（2023年6月4日制定；2026年7月1日改定）

この規定は，化石研究会会誌投稿規程および原稿作成のガイドラインに基づいて，化石研究会誌への投稿原稿の査読に関する一般的な手順を定めるものである．

1. 本誌に投稿された総説・原著論文・ノート・短報の原稿については，担当編集委員の他に，編集委員会が適任と判断した 2 名の査読者に審査を依頼する．査読者名は，当人の希望により匿名とすることがある．
2. 査読者は，原稿の内容及び構成に関する所定の様式への記入，自由記述，原稿への書き込み等により，査読意見を編集委員会に報告する．
3. 編集委員会は前項の査読意見をまとめて，編集委員会の意見とともに著者に伝える．
4. 著者は，査読意見に基づいて，必要に応じて原稿を修正し，修正稿を提出する．ただし，査読意見を受け入れがたいと判断した場合は，その理由を付して編集委員会に申し立てることができる．
5. 著者が修正稿を提出する場合，査読意見に対する回答は，別紙にまとめるか，原稿中の修正箇所をハイライトする．
6. ~~6.~~ 上記の査読作業を繰り返し，掲載が認められるかどうかの判断は，編集委員会が行う．
7. 査読結果を送付してから 6 か月以上，著者から編集委員会に連絡がない場合は，投稿原稿を取り下げたとみなす．